

事業の背景・目的

・生物の多様性、独自性に富む石垣島であるが、その中でも名蔵アンパルは亜熱帯地域における典型的かつ多様な自然環境がまとまった貴重な湿地であり、特に保全すべき重要な地域となっている。
しかしながら、製糖工場からの排水及び土地改良事業の排水路整備による赤土の流入等により、水質の悪化、土砂の堆積やマングローブ林の拡大に伴う干潟域の減少等の環境悪化が指摘されている。また、自然体験ツアーの増加に伴う自然環境への負荷の増大等、これまでのアンパルとは姿かたちを変えつつある。
そこで、本事業を活用して、名蔵アンパルの保全・利用の関係者をメンバーとした協議会を設立し、名蔵アンパルの自然環境保全・賢明な利用を定めたルール作りを進めるものである。

事業の内容

令和元年度

事業① 名蔵アンパルの環境調査

- ・名蔵アンパル保全・利活用計画策定に資するアンパル及び周辺地域の自然環境調査及び資料収集を行う。
具体的には、裸地、耕作地等からの赤土流出状況調査、赤土の堆積状況、水位、流量、流速調査、マングローブ林の土砂堆積状況調査、水質調査(BOD,SS)を実施。
- ・その他、既存文献等により植生や生物相の調査を併せて行う。
- ・調査の結果得られたデータを元に「環境カルテ」を作成する。

令和2年度

事業②

- ・保全・利活用策定事業
前年度の調査により問題点や課題を整理し、名蔵アンパル保全・利活用計画を策定する。
保全計画においては、現在の環境を保全・維持または回復させる取組みを検討し、利活用計画においては、賢明な利用の推進のため、アンパル利用ルールの策定や、自然環境と観光業の共生など持続可能な利用を目指す。

得られた成果

- ・名蔵アンパル保全・利活用推進協議会の設立。(地元住民、環境団体、周辺事業者、各行政で構成され、次年度保全・利活用計画を策定する)
- ・環境調査の結果を元にして、問題点をまとめた「環境カルテ」の作成。(今後カルテを元に保全・利活用計画を策定)